

北海道 NPO ファンド 2021 年度事業活動計画

2021 年 10 月 1 日～2022 年 9 月 30 日

1. 休眠預金等活用法による「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」事業の実施
資金分配団体として、「北海道リスタート事業」を実施します。事業規模 6000 万円。連携団体は、北海道 NPO サポートセンター、北海道総合研究調査会です。
2. 休眠預金等活用法による 2020 年度一般枠資金分配団体として、「子ども若者主体の持続可能な地域づくり事業」を実施します。事業規模 9000 万円。2024 年 3 月までの事業。連携団体は、コープさっぽろ、北海道 NPO サポートセンターです。
3. 「コープ 2018 北海道地震ボランティア応援基金」の 3 年間の助成成果をまとめる成果報告会を実施します。また「越智基金・市民活動支援基金」の助成事業を実施します。また、北の NPO 基金の運営体制を、基金ごとの趣旨に沿って運営できるように、選定委員の体制を見直します。選定委員の方々にはいままでよりも基金運営に関わっていただけるようになります。 ※北の NPO 基金は、市民活動支援基金(一般助成)、プロジェクト基金(事業指定型寄付助成)、冠基金から構成されています。
4. 第 3 期「まちのプロジェクト基金」の実施に向けてプログラムの検討を行います。組織診断から資金調達、事業実施までを支援対象とするプログラムであり、地方で必要となるといわれている「多機関連携」を意識した支援を行います。市民社会創造ファンドの助成により行った 2 期にわたる助成の結果を踏まえ、
5. 北海道災害復興支援基金の運営を継続します。この基金は 2020 年までで運営を終了した「いぶり基金」の後継として位置づけられます。NPO・市民団体が平時から災害に備え非常時にはすぐに活動を始められるような態勢を整えることが目的です。20 年 2 月に活動を開始した基金の充実を図ります。この基金は、有志プロジェクトメンバーの協力により運営します。
6. 各種の助成申請を試みます。休眠預金助成事業の負担を勘案しながら適宜、助成申請を試みます。社会的インパクト評価、組織評価、遺贈寄付などがテーマとして考えられます。
7. エリア(地域)基金(当ファンドの北海道内展開)をはじめとする、新たな基金を検討します。
北海道の市民活動をめぐる資金循環の実現のためには、札幌拠点の当ファンドだけでは十分とは言えないことから、旭川など道内中核市の NPO 支援センターと連携したエリア基金造成の可能性、実施体制などの検討を行います。また、非営利活動の資金循環を促進するための基金の在り方を検討します。

8. 基金の普及・啓発活動

21年12月の寄付月間のアンバサダーとして、寄付文化醸成の活動を行います。
2020年から21年にかけて、基金の広報ちらしや団体紹介ちらしを作成しました。21年度も当基金の普及のために広報資料を見直し、更新したいと考えています。
北海道NPOファンドおよび北のNPO基金の活動を一般に周知するため、2017年から加盟した全国コミュニティ財団協会における研修への参加を検討します。

9. 遺贈・寄付の相談窓口業務

NPOにたいする遺贈を考える方が増えるという予測のもと、当法人が専門家ネットワークの窓口として遺贈や寄付の相談にあたります。サイト以外の広報資料の整備やセミナー開催などを試みます。全国レガシーギフト協会を通じた情報収集や研修参加をします。

10.非営利組織評価センター(JCNE)のグッドガバナンス認証取得を検討します
認定NPOの資格を更新できたので、さらに信頼されるNPOを目指してグッドガバナンス認証取得を目指します。

11.組織評価、社会的インパクト評価、事業評価へのとりくみ

助成事業を行ううえで必要な取り組みと考え、20年度は未実施だったモデル団体の募集や、NPOへの評価の意義を広く周知する取り組みを続けます。

13. 北海道NPOサポートセンター、北海道NPOバンク、NPO推進北海道会議との連携を積極的に実施しつつ、各種調査対応、メディアへの掲載等の情報発信を通じて、個人や団体等からの基金の原資を増やす活動を行います。